

在来種「エゾアカヤマアリ」と外来種「ヒアリ」の違いについて

道内の各地に生息する在来種の「エゾアカヤマアリ」と、最近問題となっている特定外来生物の「ヒアリ」がよく似ているため誤認するケースがあり、関係するお問い合わせが増えてきたことから、簡単な見分け方を次のとおり整理しましたので、参考にしてください。

特徴	エゾアカヤマアリ	ヒアリ
体長 (働きアリ)	7 mm前後 (個体の大きさはほぼ同じ)	2. 5～6. 0 mm (様々な大きさの個体がいる)
体色	赤茶色(頭、胸) 黒褐色(尻) <u>頭、胸に光沢なし(ザラザラした感じ)</u> ※ 色には、多少の地域差、個体差があります	飴色(頭、胸) 黒褐色(尻) <u>全身に光沢あり(ツルツとして</u> <u>いる)</u>
触覚の先の形状	<u>先端まで等間隔に短い節が並ぶ</u>	<u>先端はこん棒状の長い節になる</u>
腰のくびれのこぶ	<u>1つ</u>	<u>2つ</u>
巣の形態	木くずや草の茎が混じった円錐状のサラサラした山を積み上げる	土を唾液で固め、ドーム状のがっちりした巣を作る
性質	攻撃的	攻撃的
攻撃方法	アゴで噛んで、尻からギ酸を吹き付ける。	アゴで噛み身体を固定し、尻の毒針を刺して毒液を注入する。

※ ヒアリは、亜熱帯から暖温帯を生息域にしており、寒さには弱いと考えられていますが、夏場は、北海道内でも十分に活動できる気温であることから、注意が必要です。

エゾアカヤマアリとヒアリの比較

